

フランスに講習に行き、居合道を通して感じたことを話してみたいと思います。昨年の11月の初めから約9日間ほどの中で3日間の講習をしてまいりました。居合は判る方、判らない方といますので居合について説明します。居合とは、日本刀を使って刀武を勉強する、また刀を使って自分自身を磨いていく事が居合と言えると思います。世界の人からすれば居合は日本武道の精神的バックボーンではなかろうかと思っているようです。フランスでは大変歓迎されました。一生懸命学ぼうとする姿勢が感じられました。私たちは技術の向上のために出かけたのですが彼らは技術の向上の中から、何かを学ぼうとしていました。彼らは日本の精神とは何か、日本人は何を考えているのか、と言うようなことを問われました。居合については、1番に正しく学ぶ。2番に少し早く学ぶ。次に少し強く出来るようになる。その為に一生懸命修練することにより、その中から『威』即ち、威厳、威圧が確立され、誰からも他人から求められるものが居合の心情だと話して、少し納得して頂きました。一生懸命な姿を人が評価してくれます。

私が教えているのは全日本剣道連盟の連盟居合ですが、彼らは古流という古くからある技を考えていました。居合には沢山の流派があります。今回フランスには6人行ったのですが、私が年齢的に一番若いのですから私が先輩方から『おまえやれ』と言うことでさせられました。学ぶ方々が余りにも真剣なので、私もつい、熱が入り一生懸命になりました。三段のカビンさんと言う小柄の人がいまして私たちの前で居合をやりました。一生懸命やってくれるので、私たちが拍手を送ると、みんなも拍手を送り、本人は私たち八段クラスが誉めるわけですから、よけい一生懸命、真剣にやってくれました。彼の持っているものを素晴らしいと讃え、認めてやる事がもっと一生懸命やろうとする気持ちをかり立てるのです。居合は居合ですが私たちは命を掛け伝統を守って行く気構えです。それが世間からどのように評価されるかは判りませんが、私たちが継承していく事が大事だと思っています。

フランスの人たちは大変に気さくな人が多いように思います。本来は国際交流基金から派遣されるのですが今回はフランスの方々が自分たちで旅費を出してくれました。フランスに着いたら「まずフランスを見て下さい」と言われ、エッフェル塔に連れていかれました。当日、雨で大変でしたが、エッフェル塔の下に行きましたら、大変古いものに素晴らしいものがある事に気がつきました。古いものを教えに行き、新しいものを学んで来る。大変感動しました。街中を観光しているような気分で、教えて頂く、私たちはもっと頑張らなくてはいけない、そんな気持ちになりました。フランスの文化はプライドが高いんだろうと思いました。プライドと言うよりも、自分たちの文化に自身を持っているのです。ルーブルも素晴らしい、凱旋門も素晴らしい、見てきたことは素晴らしいの一語です。私たちは古いものを忘れてはならない。古いものから新しいものを学んでいく。居合も同じです。フランス人は優しく、大らかで、しかしシビアです。講習中は一生懸命です。講習が終わると居合の話などありません。世間一般の話になります。そのへんが日本人と違います。

私の父は1昨年フランスに行かせて頂きました。その時、父は行きたくないと言っていました。実は父は2度目で3年前にもフランスに行きました。しかし、父にどうしても来て欲しいとの要請で行きました。昨年父は他界しました。私は父を目標に、父を超えたいと考えていました。ですから、父が行ったフランスに行きたいと思っておりました。国際交流という名前で行って来たのですが何を考えたかという、最終的には居合をして何になるのか、自分の夢を求めて、自分が精一杯生きていく、それを自分が感じる事が居合ではなかろうかと思いました。

フランスに行って何を感じてきたのか、素晴らしいベルサイユ、みんな苦労して建物や歴史を創ってきた。みんな苦労があるんだなと思いました。今やらなかったら次の人にやって貰えない。今自分自身が自信を持ってやる。精一杯やることで変化して来る。居合は言葉の通り居て合わせると書きます。根本は何時でも一生懸命やる。私もこれからも一生懸命やって行きたいと思っています。これからも剣道と居合を通して少年指導に携わっていきたいと思います。自信をもって精一杯やれば必ず結果が付いて来る。一生懸命努力する姿が大切だということをフランスにいて感じて参りました。3年前に1ヶ月間、ブラジル、チリ、アルゼンチン、ベネズエラ、ニューヨークを廻ってきました。彼らも同じです。彼らも一生懸命でした。だから私たちも一生懸命応えました。外を見て廻り、私自信、一生懸命やらなければならないと言う気持ちにさせられました。

会 員 の 声： 長谷川恵慈

事務局より「原稿提出のお願い」のFAXが届き、もう順番が来たのかと憂鬱な気分です。今回は、桂文珍の「心を癒す時間のつくり方」より抜粋します。

現代人は、物と金と時間と情報の四つに追われてストレスを溜めており、それから逃げ出すとストレスは解消できるけれども、何日も接しないと、今度はそれらが欲しくなるわけです。ですから、なんらかの方法で両者の間を行ったり来たりしつつ、日頃は何かボランティア的なことをしてみる。

ボランティアと言うほど大げさでなくてもいいから、ちょっと何かいいことをしてみる。

例えば、おばあちゃんが階段で大きな荷物を抱えて困っていたら、「持ってあげましょうか」と声を掛ける。

あるいは、目の不自由な人が困っていたら手助けをしてあげる。忙しいとか、忙しくないとかに関係なく、人の痛みを敏感に感じて、何か行動をちていけば、相手からは、きっといい笑顔が返ってくるはずです。すると、こちらの気持ちも自然と和んできます。

もちろん、人間ですから、そうそう聖人君子のような生き方を続けるのは難しく、私も、癒しすぎて疲れてくると、人と会うのさえ嫌になるときがあります。そんな時は、思い切ってどこかへ逃避してみることです。そんなゆとりのある生き方をしていけば、どんなに忙しくても楽しく生きていけると私は思います。

私も、9日より12日まで白馬にスキーに行き、思い切り羽をのばして来ます。